

第2回加賀ふるさと検定《初級問題》解説編

1 加賀市には、縄文時代から、弥生、古墳時代までの古代遺跡が、これまでに、およそ（ ）か所が確認されている。

- ① 150 ② 350 ③ 650 ④ 850

正解は④です。 正解率87.2%

加賀市は県内でも有数の遺跡の密集地で、これまでに約850ヶ所の「周知の遺跡」が確認されております。この数は、七尾市や金沢市などに次いで、県内では最も多いところとなっています。このことは、この地域が古代より、水に恵まれた大変住み良いところであったともいえます。

2 加賀市の（ ）遺跡は、貴重な木製品や稲作を示す炭化した米粒などが出土し、「北陸の登呂遺跡」とも呼ばれ、当市の弥生時代を代表する農耕遺跡である。

- ① 猫橋 ② 藤の木 ③ 横北 ④ 柴山出村

正解は①です。 正解率81.5%

「猫橋遺跡」は市内合河町の八日市川にかかる猫橋付近で発見された遺跡で、「北陸の登呂遺跡」とも呼ばれる当市の弥生時代を代表する遺跡です。この付近では、地面を掘ると水が湧き出るほどの湿地帯で、およそ1,800年前のしゃもじ、くわ、はしごなど、貴重な木製品が、ほぼそのままの形で発見されました。

3 加賀市（ ）町にある狐山古墳は、国の史跡に指定されている。

- ① 勅使 ② 分校 ③ 二子塚 ④ 横北

正解は③です。 正解率75.4%

昭和7年に、二子塚町地内で箱型の石棺が発見されました。調査の結果、5世紀中頃の前方後円墳だと分かりました。これが、現在、国指定史跡となっている狐山古墳です。全長は56mあり、さまざまな貴重な副葬品が発見され、この地域の統治に成功した江沼臣の一族に関係する古墳ではないかと考えられています。

4 平安時代、白山五院の一つであった「大聖寺」と称する寺院は、現在の（ ）付近に在ったと考えられている。

- ① 実性院裏山 ② 江沼神社 ③ 錦城山 ④ 畑町

正解は③です。 正解率60.5%

平安時代に入ると仏教がますます盛んになり、古来よりの白山信仰が、仏教思想と結びつきました。当地域では、柏野寺、温泉寺、極楽寺、小野坂寺、大聖寺の五つの寺院が白山信仰の拠点地として建立されたことが平安後期の書『白山之記』に記載されています。この「白山五院」のうち、「大聖寺」は現在の錦城山から荻生町にかけての山の上にあった寺院と考えられています。

5 寿永2年、平家の武将斎藤実盛は、加賀国篠原の地で（ ）の家来手塚太郎光盛に討ち取られた。

- ① 木曾義仲 ② 平時忠 ③ 源義経 ④ 源頼朝

正解は①です。 正解率70.5%

寿永2年(1183)平家軍は、越中の俱利伽羅で木曾義仲に大敗し、加賀国篠原(現在の加賀市篠原町あたり)まで逃れてきました。この地で、平家の武将、斎藤実盛は、義仲の家来、手塚太郎光盛に討ち取られました。老武者の黒髪を不思議に思い、近くの池で洗ったところ、黒髪が白髪となり、実盛だと分かりました。その昔、命を救ってくれた木曾義仲はその実盛の首を見て、涙したという伝承が残っています。

6 文明3年、本願寺第8世蓮如は、()に道場をつくり当地方に浄土真宗を広めた。

- ①瀬越 ②塩屋 ③吉崎 ④三木

正解は③です。 正解率 67.6%

本願寺8世蓮如は、比叡山延暦寺衆徒に追われ、近江(滋賀県)を転々としていましたが、ついには北陸の吉崎にまで避難し、そこに浄土真宗の道場を開きました。その後、吉崎御坊にはまたたく間に多くの参詣者がつめかけるようになり、北陸一円に浄土真宗が拡大していくきっかけとなりました。

7 天正3年、長篠の合戦により武田軍に勝利した織田信長は、その後、越前・加賀に侵入し、北陸を平定したため、およそ()年続いた一向一揆の支配が終焉した。

- ①50 ②100 ③150 ④200

正解は②です。 正解率 47.0%

天正3年(1575)長篠の合戦で武田軍を破った織田信長は、北陸を平定するために越前に侵入しました。羽柴秀吉や丹羽長秀、柴田勝家らの織田軍の先鋒は、ついには加賀へ討ち入り、大聖寺、敷地、山中の各城を攻め落とし、江沼郡を占領しました。その後、能美の一揆勢も破って手取川まで進出しました。ここに、江沼・能美の両郡は、百年近くに及んだ一向一揆・本願寺勢の支配から離れ、新たに織田信長の占領下に入りました。

8 天正11年の賤ヶ岳の戦いの後、丹羽長秀の与力であった溝口秀勝は大聖寺城主として入部したが、慶長3年、越後の()に国替えとなった。

- ①高田藩 ②村上藩 ③長岡藩 ④新発田藩

正解は④です。 正解率 74.4%

慶長3年(1598)4月、北庄の堀秀政(長秀の後任)の子秀治が越後(新潟県)の春日山に移されると、大聖寺城主溝口秀勝は越後の新発田に移りました。秀勝は移動に際し、本百姓を除く、多くの家臣や奉公人を越後に連れて行き、秀勝はその後、新発田藩の初代藩主となりました。

9 関ヶ原の戦いにより、大聖寺城主山口玄蕃は西軍につき、東軍の()との間で、錦城山を舞台に激しい戦いをした。

- ①柴田勝家 ②佐々成正 ③前田利長 ④堀秀正

正解は③です。 正解率 79.4%

関ヶ原の戦いにより、当地でも東軍と西軍で戦いが起こりました。大聖寺城主山口玄蕃は西軍に、金沢城主前田利長は、家康側の東軍についたため、同年7月、前田利長率いる2万5千人の大軍が大聖寺城に攻め込みました。この戦いで1200人余りの山口玄蕃軍は、僅か1日で敗戦して、およそ800人の家臣が討ち死にしました。

10 大聖寺藩前田家の菩提寺である()の裏山には、大聖寺藩歴代藩主の墓が建っている。

- ①本光寺 ②全昌寺 ③慶徳寺 ④実性院

正解は④です。 正解率 80.1%

大聖寺の南はずれ、下屋敷から神明町にかけての一带は、山ノ下寺院群と称し、禅宗・浄土宗・日蓮宗の各派の寺院が並んでいます。その最も南側に位置する実性院は大聖寺前田家の菩提寺となっています。寺の後ろの石段を登ったところには、初代から14代までの歴代藩主すべての墓が並んでいます。

11 大聖寺藩は城を築くことが認められず、現在の（ ）が建っている場所あたりに藩邸屋敷を建てた。

- ①錦城小学校 ②大聖寺地区会館 ③加賀聖城高等学校 ④加賀市民病院

正解は①です。 正解率 94.0%

藩祖利治は廃城となった大聖寺城に代わり、大聖寺川・熊坂川を堀として、錦城山の麓に藩邸を建てました。その場所は、ちょうど現在の錦城小学校の建物が建つ場所になります。大聖寺藩は十万石（当所は七万石）の格式をもっており、本来であればひとつの「城」をもっているとは思っていませんが、加賀百万石の支藩ということで、一国一城令により、城を築くことが認められなかったのです。

12 藩祖利治公が亡くなった際、（ ）人の家来が殉死した。

- ① 3 ② 4 ③ 5 ④ 6

正解は①です。 正解率 43.4%

藩祖利治の死去に際し、家臣の中沢久兵衛（35歳）・小沢三郎兵衛（49歳）・小栗権三郎（22歳）の3人が殉死（追腹）しました。小沢は信州（長野県）善光寺駅に近い寛慶寺で、小栗は大聖寺の久法寺で、中沢は全昌寺でそれぞれ自害しました。彼らの墓は、いまでも藩祖利治の墓の後方に立てられています。

13 大聖寺の江沼神社境内に建つ（ ）は、大聖寺藩3代藩主前田利直の休息所として建てられたもので、国の重要有形文化財に指定されている。

- ①無限庵 ②成巽閣 ③竹涇館 ④長流亭

正解は④です。 正解率 95.4%

現在の江沼神社境内の熊坂川に面して建っている「長流亭」は、宝永6年（1709）大聖寺藩3代藩主前田利直の休憩所として建てられた数寄屋造りの建物です。「川端御亭」とも呼ばれる柿葺の平屋ですが、欄間や障子、板戸などには斬新なデザインがほどこされ、江戸期の加賀・大聖寺両藩の文化水準と工芸技術の高さを今に伝えるものとして高い評価を得ています。

14 加賀藩や大聖寺藩では、村内における有力な農民を（ ）と称する役職に任命し、村全体の管理や徴税に当たらせた。

- ①村肝煎 ②村頭 ③村目付 ④十村

正解は④です。 正解率 46.3%

十村（とむら）制度は、加賀藩の第3代藩主前田利常が制定した、加賀藩・富山藩・大聖寺藩における独自の農政制度でした。この制度は、地方の有力農民を十村という特別の役に任命し、農村全体を管理監督し徴税を円滑に進める上で重要な役割を担っていました。

15 大聖寺藩の参勤交代は、江戸時代250年間の間で、江戸へ行く「参勤」と、国元に帰る「交代」が、合計で（ ）行われた。

- ①24回 ②62回 ③102回 ④181回

正解は④です。 正解率 32.0%

大聖寺藩の参勤交代は、江戸に行く参勤（参観）89例と国元に帰る交代（就封）92例の合計181回が記録に残っています。外様大名は毎年4月の実施と定められていましたが、藩祖利治は、すべて9月・10月に参勤交代を行いました。そのコースには金沢・中山道を経由する下街道（131里）、福井・中山道を経由する上街道（148里）、東海道を經由する上街道（139里）の3つのコースがありましたが、その多くは金沢を經由する下街道コースが利用されました。

16 大聖寺藩3代藩主利直の弟前田利昌は、宝永6年、上野寛永寺の塔頭で大和柳本藩主を殺害したことで切腹となったが、この事件は俗に（ ）事件と呼ばれている。

- ①飛騨守 ②大聖寺 ③寛永寺 ④采女

正解は④です。 正解率 60.5%

大聖寺藩3代藩主利直の弟、利昌(采女)は、宝永6年(1709)2月に上野寛永寺で行われた5代将軍徳川綱吉の法会において、他藩の藩主4人とともに朝廷の使者をもてなす御馳走役を命じられました。ところが、利昌はこの法会が行われた2月16日に乱心し、同寺塔頭の顕性院で大和柳本藩主の織田秀親(監物)を殺害しました。利昌は2日後、切腹となりましたが、この事件は俗に「采女事件」と呼ばれています。

17 享和3年（ ）は、正確な日本地図をつくるために全国各地を回り、その年の6月に大聖寺藩領内の海岸沿いを測量した。

- ①伊能忠敬 ②間宮林蔵 ③近藤重蔵 ④松浦 武四郎

正解は①です。 正解率 95.4%

伊能忠敬は享和3年(1803)2月25日に江戸を出立し、東海・北陸・佐渡を廻り、10月7日に江戸へ帰着しました。この第四次測量隊の人数は、伊能忠敬を始めとした8人で、6月24日に吉崎から大聖寺町に入り、同日に大聖寺本町の板屋(一部は松屋)、25日に片野村の肝煎宅、26日に橋立村の因随寺(現福井別院橋立支院)に宿泊しながら大聖寺領内の海岸部を測量しました。

18 明治4年7月、廃藩置県により、「大聖寺県」が誕生したが、（ ）ヶ月後、金沢県に合併された。

- ①4 ②6 ③8 ④10

正解は①です。 正解率 57.7%

明治4年7月に、明治新政府の廃藩置県により、大聖寺県が誕生しました。しかし、この年の11月には、金沢県に合併されたので、大聖寺県が在ったのは、僅か4ヶ月のことでした。なお、金沢県も明治5年2月には石川県と改称したので、これ以降、当地は石川県江沼郡となりました。

19 明治元年、大聖寺藩は官軍から弾薬の調達を命じられ、その資金不足を補うために（ ）のほら穴で贋金をつくった。

- ①法皇山 ②鞍掛山 ③錦城山 ④大日山

正解は③です。 正解率 82.6%

大聖寺藩は官軍から弾薬(パトロン)の調達を命じられた際、その資金不足を補うために一歩銀や銀の簪などを集めて、御城山(錦城山)下の洞穴で二歩金を偽造しました。この貨幣の偽造事件をパトロン事件といいます。藩は事件の発覚後に、市橋波江に全責任を負わせ、その切腹をもって終結させました。

20 明治11年に明治天皇が北陸巡幸をされた際、大聖寺においては（ ）でご休憩をされた。

- ①長流亭 ②願成寺 ③錦城小学校 ④実性院

正解は③です。 正解率 28.1%

明治11年に明治天皇の北陸道・東海道の巡幸がおこなわれました。巡幸は右大臣岩倉具視や参議大隈重信らを従え、総勢798人という空前の人数でした。8月30日に東京を出発し、富山県を通過して10月6日には、小松の串茶屋村から動橋村に入り、その日の午後に大聖寺町に到着しました。敷地村において、旧藩主前田利昌をはじめ、錦城、有隣の両小学校の生徒たちが出迎えを行い、行在所となった錦城小学校には急遽「御座所」がつくられ、そこで休憩されました。

21 明治36年に新家熊吉が創業した「新家商会」は、自転車の（ ）を製造した。

- ①サドル ②ブレーキ ③リム ④タイヤ

正解は③です。 正解率 97.5%

明治36年(1903)に、新家熊吉は従業員15名で自転車の木製リムを製造する会社「新家商会」をつくりました。新家商会の木製リムは、ほとんどの国産の自転車リムに利用されるまでに成長し、大正2年(1913)には、鉄製リムの生産に切り換えるなどして、日本有数の会社にまで発展しました。その後、いくつかの変遷を経て、現在の大同工業株式会社となりました。

22 江沼郡では、明治44年（ ）たちが中心となって、多額の出資をして「大聖寺川水力発電株式会社」を設立し発電事業に乗り出した。

- ①旅館経営者 ②北前船主 ③機業家 ④漆器業者

正解は②です。 正解率 77.9%

明治15年(1882)に、日本で最初の電灯事業が始まって以後、電力需要は徐々に高まり、当地にもその波が押し寄せてきました。明治44年(1911)に、電力の必要性をいち早く感じていた北前船主たちの出資により「大聖寺川水力発電株式会社」が創立されました。初期の社長には、北前船主の久保彦兵衛や西出孫左衛門が就任しました。

23 ()年、大聖寺の錦城小学校を主会場に、骨董から教育資料・工業製品・学校生徒の作品などさまざまな資料を展示した「大聖寺博覧会」が盛大に開かれた。

- ①明治12年 ②明治28年 ③大正6年 ④昭和7年

正解は①です。 正解率 19.9%

「大聖寺博覧会」は、明治12年(1879)の4月から5月にかけて、15日間にわたり、大聖寺の錦城小学校と遷明中学校の2か所を会場に盛大に開催されました。この博覧会は、旧大聖寺藩の家老前田幹や権大参事飛鳥井清らの企画によるものでしたが、明治維新後の江沼郡初の博覧会の開催であり、石川県内でも明治5年の金沢展覧会、同7年の金沢博覧会に次ぐ早い時期の開催でした。

24 加賀市の面積は、およそ（ ）平方kmである。

- ①280 ②306 ③422 ④502

正解は②です。 正解率 92.9%

旧加賀市の面積が151.39km²、旧山中町の面積が154.39km²でしたので、平成17年に2つの市町が合併したことで、現在の加賀市の面積は306km²となっています。このうち、山林が211.8km²で、ほぼ7割を占めています。なお、石川県内19市町村の中では、白山市の755.17km²をトップに、金沢市、輪島市、小松市、七尾市に次いで6番目の広さとなっています。

25 加賀市で最も高い山は、標高（ ）mの大日山で、その頂上は小松市との境界線上に位置している。

- ①768 ②1,268 ③1,368 ④1,568

正解は③です。 正解率 80.1%

加賀市から日本三名山のひとつ、霊峰白山を仰ぎ、その手前、西方に眼をうつすと山中・大日山県立自然公園に指定されている「大日山」が見えます。大日山は、福井県勝山市と石川県の小松市、加賀市にまたがる標高1368mの山で、その頂上は加賀市と小松市の境界に位置するところとなっています。山名は大日如来を祀ったことに由来しているといわれています。

- 26 柴山潟は、昭和 29 年から行なわれた干拓事業により、それまでの面積のほぼ（ ）に縮小した。
① 2分の1 ② 3分の1 ③ 4分の1 ④ 5分の1

正解は②です。 正解率 61.2%

柴山潟は市の東北部に位置する、面積約 1.7km²、周囲約 6.2 kmの小さな湖ですが、もともとは現在の約3倍の 5.45 km²ありました。しかしながら、昭和 29 年（1954）からスタートした国営加賀三湖干拓建設事業により、その3分の2が干拓されて現在に至っています。

- 27 明治8年、山中の（ ）で良質の黒鉛が発見されたことで、大聖寺で「加州松島社」と称する鉛筆製造会社がつくられた。
① 九谷 ② 真砂 ③ 片谷 ④ 大土

正解は③です。 正解率 53.0%

明治8年に、富士写ヶ岳の山麓、山中温泉片谷（へぎだに）の地層から良質の黒鉛が発見されました。元大聖寺藩士の飛鳥井清は、この黒鉛を使って鉛筆製造を行なうことを思いつき、明治 10 年に、加州松島社と称する会社を大聖寺の松島町に立ち上げました。

- 28 測量地点「加賀菅谷」での記録によれば、当地のここ 30 年間の年平均気温はおよそ（ ）となっている。
① 11.8 度 ② 13.1 度 ③ 15.2 度 ④ 17.8 度

正解は②です。 正解率 90.4%

加賀市の気候は、日本海側気候の北陸型で、冬の曇天と多雪に特徴があります。測量地点である「加賀菅谷」のここ 30 年間の平均で、気温は、およそ 13.1 度、年間降水量は 3078.6 mmとなっています。

- 29 ラムサール条約登録湿地の片野鴨池は、絶滅危惧種（ ）が飛来する国内有数の場所である。
① ガン ② ヒシクイ ③ トモエガモ ④ マガン

正解は③です。 正解率 69.0%

片野鴨池には天然記念物のマガン、ヒシクイ、トモエガモなどが飛来し、水鳥の重要な生息地として知られていますが、特にトモエガモは、シベリア東部で繁殖し、中国東部や朝鮮半島、日本、台湾などで越冬する水鳥ですが、群れをつくって行動する習性があり、そのため大量に捕獲されやすく、近年では絶滅種危惧種となっています。

- 30 秋、河原や空地では、北アメリカ原産の外来植物である（ ）が黄色い花をつけて繁殖し、在来種のススキなどと勢力を競っている。
① ブタクサ ② セイタカアワダチソウ ③ ハルジオン ④ トウネズミモチ

正解は②です。 正解率 58.7%

植物には園芸として古くに持ち込まれたものや海外との交流の活発化によって種子などが荷物に付着して入り込んだものなどがあり、これらは「外来植物」といわれています。加賀市の植物の中には、こうした外来植物がたくさんあります。中でも、セイタカアワダチソウは、秋になると黄色い花を咲かせてあちこちの空き地や斜面などで異常繁殖し、在来種のススキなどと勢力を競っています。

31 大聖寺の町屋は、道路に面した間口が狭く、いわゆる（ ）の寝床と呼ばれていた。

- ①へび ②ハモ ③ウナギ ④アナゴ

正解は③です。 正解率 57.3%

大聖寺の町家は、道路に面して間口が狭く奥行きが長い、いわゆる「ウナギの寝床」と呼ばれる間取りが特徴のひとつでした。「ウナギの寝床」と称する言葉は、京都の町家の代名詞としてよく使われています。こうした間取りが広がった理由として、江戸時代においては、間口の長さで税金が課せられたことから自然と狭くなっていったとの説や、都市計画の観点から短冊状の土地区分が行われた結果であるとの説などがあります。

32 山代温泉では、狂言師野村万之丞が創作した「楽劇・大田楽」に基づいた演舞に（ ）による開湯伝説を取り入れた山代大田楽が毎年、服部神社前で開催されている。

- ①カラス ②サギ ③カモ ④キツネ

正解は①です。 正解率 59.8%

平安時代中頃、田植えの前の豊作を祈る田遊びから発展した「田楽」は、全国各地で、貴族、武士、一般農民の区別なく広まりましたが室町時代には消滅しました。この幻の民俗芸能を、狂言師、五世野村万之丞が創作舞踊として現代によみがえらせたのが「楽劇・大田楽」です。山代温泉では、平成7年（1995）から、カラスによって発見されたという開湯伝説を、この大田楽の中に取り入れ、独自の演出により行われています。

33 毎年8月27日から、動橋町の振橋神社では、毒蛇伝説に基づいた「（ ）焼き祭り」が行なわれる。

- ①どじょう ②あゆ ③ぐず ④へび

正解は③です。 正解率 92.9%

動橋町の振橋神社には、昔、毒蛇が住んでいて、深夜、年頃の女の子を奪っていくことがあり、人々は大変恐れていたが、大日貴神（おおなむちのかみ）がこれを退治したという伝承があります。以来、動橋では、毎年、この神の功績を讃えて振橋神社境内で火を焚く祭りが行われるようになったといわれます。これが現在の「ぐず焼き祭り」の起源となっています。

34 「べろべろ」とは、（ ）を溶かして、溶き卵を流し入れて固めたもので、お祭りや正月などの祝いの席によく出された郷土料理である。

- ①カタクリ ②コンニャク ③カンテン ④コムギコ

正解は③です。 正解率 75.5%

「べろべろ」は、お祭りや正月のおせち料理など、お祝いの席には欠かすことができなかった加賀地方の郷土料理です。別名「アビス」とも呼ばれています。作り方は、細かくちぎった寒天を火にかけて煮溶かしたら、調味料を加え、溶き卵をショウガ汁とともに流し入れます。あとは冷やして固めるだけです。好みに砂糖の量を多くし、おやつとして食べる場合もありました。

35 加賀地方で広く使われてきた方言（ ）は、おもに「おおげさな」という意味で使われてきた。

- ①がっぱ ②かさだかな ③はしかい ④あてがい

正解は②です。 正解率 66.9%

「かさだかな」とは、「おおげさな」という意味で使われてきました。嵩（かさ）は体積や容量を示す言葉なので、かさを高くするということで、「おおげさ」の意味につながったのでしょう。この「かさ高」は全国共通語でもありません。

36 篠原町には、竹の枝や幹の色が、金色と緑色の2色が交互になった（ ）と呼ばれる竹があり、国の天然記念物に指定されている。
①金銀竹 ②金明竹 ③銀明竹 ④金緑竹

正解は②です。 正解率 97.5%

明治9年(1876)篠原町のマダケ林の中から、竹の枝や幹の色が、金色と緑色の2色が交互に出ている「金明竹」が発生しました。もともと金明竹は、江戸時代より園芸品種として植栽されていますが、篠原の金明竹は突然変異による野生で繁殖しました。野生で育っている金明竹は、この篠原を含めて全国5か所程度しかなく、そうしたことから国の天然記念物に指定されています。なお、この金明竹の命名者は明治天皇だとされています。

37 加賀市の（ ）には、アカテガニやツルガマイマイなどが生息している。
①鴨池 ②柴山潟 ③鹿島の森 ④加佐ノ岬

正解は③です。 正解率 92.2%

大聖寺川の河口に位置する「鹿島の森」は、標高およそ30メートル、外周は600メートル程度で面積は約3haの陸続きの小島です。古くは天台宗の霊場や法華宗の道場があったため、数百年来、斧を入れられことがなかったといわれ、そのため、タブ、スタジイ、ヤブニッケイなどの常緑広葉林が生い茂り、動物ではアカテガニやツルガマイマイが生息するなど、特異な自然環境が残る島として国の天然記念物に指定されています。

38 加賀市の片野鴨池周辺では、江戸時代より（ ）猟という独特の鴨猟が行なわれてきた。
①棒網 ②投網 ③突網 ④坂網

正解は④です。 正解率 95.4%

加賀市片野町の鴨池周辺では、鴨を捕獲するために「坂網猟」と称する伝統的な猟が江戸時代より現在まで続けられています。坂網猟は、矢竹でつくったY字形の枠に網を張り付けた、長さおよそ3.5mの「坂網」と網を飛来する鴨の群れに向かって空中高く放り投げて捕獲します。鴨がその網にかかると、メタとよぶ留め具がはずれ、網が鴨に絡みつく仕組みとなっています。江戸時代には、大聖寺藩の武士の鍛錬として大いに奨励されました。

39 大聖寺藩の関所門は、明治2年、関所が廃止されたことで、大聖寺山ノ下寺院群のひとつである（ ）に移され、現在に至っている。
①実性院 ②全昌寺 ③宗寿寺 ④本光寺

正解は③です。 正解率 28.8%

大聖寺藩の関所は寛永16年(1639)の大聖寺藩分藩以前から加賀藩によって大聖寺城下町の西端(現在の大聖寺関町)に設置されていました。廃藩置県により明治2年(1869)に大聖寺関所が廃止された際、その檀家であった家老生駒一彦の口利きで、大聖寺藩の祈願所でもあった宗寿寺の境内に移されたと伝えられています。宗寿寺の関所門は、現在、瓦葺の屋根がついていますが、もともとは屋根のない柵門であったと考えられています。

40 大聖寺藩では、特に14代藩主前田利鸞が能楽を愛好したことで、（ ）には、利鸞から拝領した貴重な能面や能装束が伝えられている。
①江沼神社 ②菅生石部神社 ③加賀神明宮 ④春日神社

正解は①です。 正解率 19.6%

大聖寺八間道の江沼神社は、菅原道真と大聖寺藩祖前田利治公を祀っている神社ですが、能楽を愛した14代大聖寺藩主前田利鸞から拝領した貴重な能装束や能面を多数所蔵していることでも知られています。江沼神社の能面・能装束は、これまでに東京国立博物館や金沢能楽美術館などの特別展においても貸し出され展示されました。

41 山代温泉薬王院の五輪塔は、平安中期に悉曇学(梵語)を極め、多数の著書を残した僧()の供養塔だとされている。

- ①空海 ②最澄 ③延昌 ④明覚

正解は④です。 正解率 83.6%

山代温泉薬王院の後方に建つ鎌倉時代の五輪塔です。調査の結果、明覚上人の供養塔と判明しました。明覚は平安時代後期の延暦寺の僧で、独力で悉曇学を修め、山代温泉温泉寺に住み、温泉房と号しました。わが国における悉曇学の第一人者で、50音図(あいうえお)配列の創始者の一人とされています。昭和53年にこの五輪塔には、保存のため、覆屋が設けられました。

42 大聖寺藩士石川嶂は、日本で最初に()に汽船を走らせた人物である。

- ①柴山潟 ②河北潟 ③琵琶湖 ④山中湖

正解は③です。 正解率 86.5%

大聖寺藩士であった石川嶂は、長崎で造船学を学び、琵琶湖に蒸気船を就航させることを藩当局に進言し承認を得ました。その後、蒸気機関2組を英国人から購入し、大津の一場啓二らとともに、明治2年に、日本で最初の湖上汽船「一番丸」を就航させました。

43 大聖寺穴虫(現在の錦町付近)出身の()は日本放送協会(NHK)の初代会長となった。

- ①岩原謙三 ②飛鳥井清 ③梅田五月 ④竹田儀一

正解は①です。 正解率 64.1%

大聖寺出身の実業家岩原謙三は東京商船学校を経て三井物産会社に入社。明治43年には芝浦製作所取締役となり、大正9年には社長に就任しました。大正13年に(社)東京放送局が設立されると、総裁に後藤新平、理事長に岩原謙三が選ばれました。大正15年に新たに「日本放送協会」が設立され、初代会長に岩原謙三が就任し、わが国の放送事業の基礎を築きました。

44 大聖寺耳聞山出身の()は、日本の口語短歌の先駆者として知られる。

- ①西出朝風 ②森本仁平 ③竹久夢二 ④広田百豊

正解は①です。 正解率 74.0%

大聖寺出身の歌人西出朝風は、本名は一(つかさ)。橋立の北前船主西出家の一族にあたる家柄に生まれましたが、金沢一中から慶応義塾に学び、文学の道を志しました。大正3年「新短歌と新俳句」、同11年、雑誌「純正詩社」を創刊し口語短歌の普及に努め、わが国における口語短歌の草分けとなりました。また、竹久夢二の影響を受け感傷的な作品で知られています。

45 当市出身の科学者中谷宇吉郎は、東京帝国大学や理化学研究所で()の弟子となり、その後の研究活動に大きな影響を受けた。

- ①高峰讓吉 ②長岡半太郎 ③湯川秀樹 ④寺田寅彦

正解は④です。 正解率 41.3%

世界初の人工雪の結晶をつくることに成功した当市出身の科学者中谷宇吉郎博士は、錦城小学校、小松中学、第四高等学校を経て東京帝国大学理学部物理学科に入学し、卒業後は理化学研究所に務めました。大学時代やその後の理化学研究所では寺田寅彦の弟子として研究生活をおくりました。文学や随筆の分野においては、寺田寅彦は夏目漱石の弟子となっていましたので、宇吉郎は漱石の孫弟子ともいえます。

46 加賀市大聖寺出身の作家、深田久弥の業績を展示する「山の文化館」は、もと（ ）の建物を利用したものである。

- ①銀行 ②織物会社 ③酒屋 ④学校

正解は②です。 正解率 86.5%

平成14年、大聖寺出身の山の文学者深田久弥の業績を展示した「深田久弥山の文化館」がオープンしました。山の文化館の建物は、明治43年に建てられた大聖寺の絹織物工場「山長織物」の事務所棟や石蔵などを改修し、久弥が愛用した遺品や各種の山に関する書籍などを展示しています。また、別棟の「聴山房」は、喫茶コーナーと各種展示会に提供されています。

47 加賀市（ ）では、江戸時代から麦芽糖を利用した飴づくりが盛んであった。

- ①作見町 ②吸坂町 ③黒瀬町 ④天日町

正解は②です。 正解率 73.3%

加賀市吸坂町は、江戸時代から飴づくりをおこなってきたところとして知られています。「吸坂飴」は、藩政期においては、一村で20軒余りの家が吸坂飴を製造し、行商の特権が与えられていたと伝えられています。材料も、米と大麦の麦芽糖だけを材料とし、砂糖や添加物などはまったく使用しない伝統的な食品です。現在ではこの「吸坂飴」をつくっている家は1軒のみとなっています。

48 加賀市（ ）町では、江戸時代からお茶の栽培が盛んで、近年では、ここで穫れた茶葉をつかった「加賀の紅茶」が商品化されて話題となっている。

- ①動橋 ③中島 ③打越 ④柴山

正解は③です。 正解率 92.2%

加賀市の打越町は、江戸時代よりお茶の栽培が盛んな地で、現在も製茶が行われています。平成●年からは、石川県茶商工業協同組合と打越製茶農業協同組合の有志で組織した茶レンジの会が企画して「加賀の紅茶」を開発しました。和風の甘い香りがする「加賀の紅茶」は人気を博し、現在、打越製茶農業協同組合では茶畑を増やし、茶葉の増産を図っています。

49 JA加賀では、近年、（ ）を原料とした焼酎を商品化し、話題となっている。

- ①かぼちゃ ②ブロッコリー ③長芋 ④栗

正解は①です。 正解率 85.1%

JA加賀は、特産品で糖度が高く食味が良い「味平かぼちゃ」を使用した「味平かぼちゃ焼酎」の販売を始めました。甘くすっきりした味わいと芳醇（ほうじゅん）さが特徴で、女性にも飲みやすい味と評判になっています。アルコール度数25度の「3年熟成」と35度の「三年熟成プレミアム」の2種類があり、JA加賀元気村などで販売されています。

50 右に示すゆるキャラの名前は（ ）である。

- ①ヤマクロくん ②すばクロくん
③ゆげクロくん ④かもマルくん



正解は②です。 正解率 48.0%

山代温泉のゆるキャラ「スパクロくん」は温泉（spa）とカラス（crow）から命名されました。つぶらな瞳とまんまるい体型、それに3本足が特徴です。このカラスは、「日本書紀」や「古事記」にも登場する霊鳥で太陽の化身といわれる三本足を持つヤタガラス（八咫鳥）をモデルとしています。ちなみに、片山津温泉のゆるキャラは「かもやん」、山中温泉は「おわんさん」です。

51 「北前」の語源は諸説があるが、現在、もっとも有力なのは（ ）番の説である。

- ①北を前にして向かっていくことから出た言葉
- ②北へ「米」を運ぶ「北米」が転化したもの
- ③北海道を回る「北回り」が北前に転化したもの
- ④大阪・瀬戸内からみて日本海側一帯の地域を指す言葉

正解は④です。 正解率 47.7%

「北前」の語源は、諸説があり、研究者の間でも一致していない部分もありますが、当市出身の北前船研究家、牧野隆信氏により、「北前」という言葉が、大阪や瀬戸内の人々により、日本海側の一帯の地域を指す呼称として使われてきた古文書を確認されたことで、現在、④を最も有力な説としています。

52 北前船の経営の特徴は、おもに（ ）で儲けを得ていたことである。

- ①利鞘（差額）
- ②運送料
- ③船貸し料
- ④乗船料

正解は①です。 正解率 78.6%

太平洋側を往来していた和船「檜垣廻船」や「樽廻船」は、船の所有者が、他人から頼まれて、荷物を他の地点まで運び、運送料を得ていました。一方、北前船は、船の所有者自身が買い込んだ荷物を別の場所まで運び、買った値段よりも高く売って、その「利ざや」を稼ぐことで利益を得ていました。そうした船は「買積船」といいました。

53 江戸時代、北前船は、大阪から瀬戸内を通り北海道までを、そのほとんどを（ ）だけで1年かけて、ひと往復した。

- ①火力
- ②水力
- ③人力
- ④風力

正解は④です。 正解率 55.5%

北前船の商いを行なうために使用した船は、おもに「弁財船（べざいせん）」と呼ぶ1枚帆の和船ですが、動力のほとんどは風だけを頼りとする「帆走」でした。そのため、進行方向から吹く向かい風のときは、前進できずに、近くの湊で「風待ち」をしなければなりませんでした。

54 北前船で北海道から大量に運んだ（ ）は、食用だけでなく、綿花や藍を栽培するときの肥料としても使われた。

- ①シャケ
- ②ニシン
- ③コンブ
- ④ホシナマコ

正解は②です。 正解率 69.0%

江戸末期から明治期にかけて大量に漁獲されたニシンは身欠ニシン等に加えられ食料品として利用されましたが、多くは「ニシン粕」に加えられ肥料として使用されました。加工されたニシン粕は、北前船で主に関西方面へ運ばれ、中国・四国・九州地方のミカンや菜種、藍、綿花などの作物栽培の肥料として使われました。

55 越前足羽山から採れた（ ）石は、別名「青石」とも呼ばれ、北前船で全国各地に運ばれ、建築物の腰石や敷石に使われた。

- ①笏谷
- ②御影
- ③滝ヶ原
- ④大谷

正解は①です。 正解率 37.7%

笏谷石（しゃくだにいし）は、その昔、火山活動で降りつもった灰が固まってできた火山礫凝灰岩で、おもに、福井市の足羽山一帯で採掘されました。特に笏谷地区の石質が優れていたことから「笏谷石」という名称がついたといわれています。また、水に濡らすと深い青色に変化することから別名「青石」とも呼ばれており、北前船によって、全国に運ばれ、建築物の基礎石や敷石、墓石、石像などさまざまな用途に使われました。

56 加賀市における「北前船の3大拠点」とは、橋立・瀬越・()の3ヶ所を指している。

- ①片野 ②塩屋 ③吉崎 ④篠原

正解は②です。 正解率 87.9%

藩政期から明治初期にかけて、江沼郡の橋立・塩屋・瀬越の3地区は北前船の三大基地でした。橋立村からは、西出孫左衛門や久保彦兵衛が、瀬越村からは大家七平や広海二三郎が、塩屋村からは西野小左衛門・小右衛門などの大船主が生まれました。特に橋立村には、全戸数100戸のうち、船主・船頭が42名、持ち船も100隻を超えていたといわれています。

57 当市の「北前船の里資料館」は、橋立の北前船主()の邸宅を資料館として公開しているものである。

- ①久保彦助 ②忠谷久五郎 ③増田又衛門 ④酒谷長兵衛

正解は④です。 正解率 43.4%

加賀市橋立町で公開しています北前船の里資料館の建物は、橋立の北前船主酒谷長兵衛が明治9年に建てたもので、8寸角のケヤキの柱、巨大な松の梁、秋田杉の一枚板の大戸など、いずれも見事な漆塗りで、当時の豪勢な暮らしぶりが感じられます。館内には航海に使われた道具や船模型、船ダンス、船絵馬、引札など数多くの資料が展示されています。

58 加賀市()町の白山神社には、航海安全を祈願して船主や船頭が奉納した船絵馬が53点保存されている。これは1神社が所蔵する船絵馬としては北陸最大である。

- ①上木 ②瀬越 ③塩屋 ④橋立

正解は②です。 正解率 49.1%

瀬越町は江戸時代から明治中期まで、北前船の拠点集落として栄え、白山神社には当該資料である53面の船絵馬が奉納されています。この数は北陸三県において最多を誇っています。これらの船絵馬の中には、船を艦から見たものや、舳先から見た珍しい構図があり、絵画史の上からみても重要です。また、海運史だけではなく、造船史の上からも、和船から西洋帆船・汽船への移り変わりなど、船の変遷を知ることができる貴重な資料となっています。

59 橋立出身の北前船主()は、明治期、函館に拠点を移し、カムチャッカなどに漁場を開くなど、北洋漁業に転身をはかり成功した。

- ①大家七平 ②広海二三郎 ③西出孫左衛門 ④久保彦兵衛

正解は③です。 正解率 77.6%

加賀橋立村の北前船主西出孫左衛門(第11代)は、先代の孫左衛門の3男でしたが、長兄は分家し、次兄は病により早く亡くなったために急遽、家業を継ぎ、孫左衛門を襲名しました。明治22年、函館に拠点を移し、カムチャッカに漁場を開き、北洋漁業に転身しました。函館では、区会議員や商業会議所特別議員、函館銀行の取締役などとして活躍し、北海道経済界の重鎮となりました。

60 橋立や瀬越の北前船主や船頭衆が、湯治の際、松前や江差の追分を湯につかりながら歌い、それを湯女たちが聞いて真似て歌ったのが、民謡()の始まりといわれている。

- ①振橋節 ②土ねり節 ③山中節 ④鯉節

正解は③です。 正解率 71.9%

北前船の船頭衆たちは、船を出さない冬場、1年間の疲れを癒やすために山中温泉などに湯治に出かけました。この時、総湯などで松前追分を歌い、それを聞いた浴衣娘たちが山中訛りで真似て歌ったのが民謡「山中節」の始まりといわれています。